

	中間経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標 (☆は取組指標, ★は成果指標)		中間(10月)		最終(3月)		結果と課題の分析		
				指標評価	評価	指標評価	評価					
確かな学力(知)		学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い課題100%提出への組織的な取組 基礎・基本の確実な定着のための帯学習 各種検定の受検率と合格率を高める取組 	☆全学年の英語検定, 数学検定, 漢字検定のいずれかの受検率を60%以上にするを目指す。	b	B	b	B	<p>○英語検定では今年度より三次市による検定料補助の制度がなくなったため, 受検者が減少したと思われる。今年度第2回の受検率は1回よりもさらに減少した。しかし, 3級, 4級の受検者は全員合格している。</p> <p>○各教科で調査に向けてフォローアップシート等による対策を図った。全国学力・学習状況調査においては全教科, 三次市学力到達度検査においては3教科において全国平均を上回った。各調査の大問ごとの正答率を分析し, 課題を絞り込み授業改善を行う必要がある。</p>			
				★全国学力・学習状況調査において, 国語, 数学, 理科で全国平均以上にする。	a		a					
★三次市学力到達度検査において全学年の各教科平均値を全国平均以上にする。	/	b										
活用力の向上 生徒が主体的に学ぶ授業			<ul style="list-style-type: none"> 「課題発見・解決学習」の質を高める授業の研究 英語科の5ラウンドシステムの実践的研究 ICTの有効活用 組織的・計画的な授業研究 授業交流を学期1回行い, 互いの授業を参観 	☆一人一研究で, 課題発見・解決学習を進める授業研究をする。授業交流週間で互いの授業を参観する。	a	A	a	A	<p>○質の高い「問い」を設定し, 単元を構想し, デジタル機器を活用しながら課題発見・解決学習に取り組み, 授業力を磨くことができた。また, 学びをファシリテートする授業づくりにも果敢に挑戦することができた。授業交流週間においては, 2学期にも実施し, 全員が質の高い授業をめざして取り組むことができた。</p> <p>○英語授業アンケートの結果では「英語の授業では, 原稿などの準備をすることなく, 即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合っています。」という項目に2年生は85.7%, 1年生は92.3%の生徒が肯定的に答えた。Small Talkやリテリング等の指導により, 自分の言葉で話そうとする姿勢や意欲が高まったと考える。</p> <p>○「授業では, 自分の考えとその理由を明らかにして, 相手に分かりやすく伝えるように発表をくふうしています。」においては肯定的評価が82.9%と中間(84.6%)よりも若干減少した。その中でも「やや当てはまる」と答えた割合が68.6%と大半を占めていたことから, より相手意識を持った発表を日々の授業で意識させる取り組みが必要である。</p> <p>○「学習の振り返りをするときには, 『どこまで分かったか』『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。」では肯定的評価が91.4%とこちらも中間(97.4%)を下回った。各教科間で連携を図り, 学振り返りの視点を明確に定め, 生徒に意識させる必要がある。</p>			
				★英語科の5ラウンドシステムを実施する学級でのアンケートにおいて「英語の授業では, 原稿などの準備をすることなく, 即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合っています。」80%以上	a		a					
				★生徒アンケート「授業では, 自分の考えとその理由を明らかにして, 相手に分かりやすく伝えるように発表をくふうしています。」を80%以上にする。	a		a					
				★生徒アンケート「学習の振り返りをするときには, 『どこまで分かったか』『学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由』を考えています。」を80%以上にする。	a		a					
豊かな心(徳)	主体的な生徒会活動		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会の自主活動の推進 専門部会を中心とした課題発見・解決 いじめ0プロジェクトの継続・深化 	★生徒アンケート「あなたは, 生徒会活動に真剣に取り組みましたか」を90%以上にする。	a	A	b	A	<p>○「あなたは生徒会の活動に, 真剣に取り組みましたか。」という項目に対して, 当てはまる「65.7%」, やや当てはまる「22.9%」という割合だった。活動の制限が徐々に解除されて, コロナ前に近い形で取り組むことができた。今後はさらに制限が解除されていくので, 取組をさらに創り出していく。</p> <p>○生徒が課題意識を持つことができるよう, 目的を明確化して, 計画的に行事や取組をさせた。今後新執行部を中心に一人一人がより課題意識を持つように取り組んでいく。</p>			
				★生徒会活動で主体的に取り組んだことを書ける生徒を80%以上にする。	/		a					
	集団の質的向上を図る		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己指導能力と社会性の向上を図るための積極的な生徒指導 生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し, 面談とSCによるカウンセリングの実施 道徳的価値の自覚を深める授業 	☆生徒アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し, 面談とSCによるカウンセリングを実施する。	a	A	a	A	<p>○生活アンケート, デイリーライフ, 個人面談等で生徒の思いを把握し, SCと連携しながら生徒の不安や悩みに対処してきた。生徒自身に自信をもたせられるよう自分の強みに気付かせるようなカウンセリングを実施している。</p> <p>○「自分のよさは, 周りの人から認められている」の肯定的評価をしている生徒は, 全体で72.2ポイントだった。中間評価より10.3ポイント下がった。「自分には良いところがある」も77.7ポイントで自分に自信がもてない生徒が多い。授業内容を理解している(83.4)が中間評価より14.1ポイント下がったこともかなり影響していると考えられる。新型コロナウイルス感染症にかかわる出席停止で授業に遅れが出たりしたことも原因の一つと考えられる。学習の遅れがある生徒への個別の支援を強化していく。また, 個々の生徒が自信がもてるような場面の設定や生徒同士のつながりを深める学級活動等多面的な活動を仕組んでいく。</p> <p>○いじめのサイン, 対人ストレスの標準スコアはそれぞれ55.5, 54.8と全学年を通して全国平均の50を上回った。</p> <p>○道徳に関するアンケート(1月実施)において, 100%の生徒が「道徳の時間の勉強はためになると思う。」に肯定的に回答した。1学期と比較しても, さらに肯定的な回答をした生徒の割合が増加した。引き続き, 生徒の道徳性を育む授業づくりに取り組んでいく。</p>			
				★生活アンケート「自分のよさは, まわりの人から認められていると思いますか」を90%以上にする。	b		b					
				★i-checkで, いじめのサイン・対人ストレスを標準スコア50以上にする。	a		a					
★「道徳科」では, 「『道徳の時間』の勉強はためになると思う。」を90%以上にする。	a	a										
健全な体(体)	基本的生活習慣の確立		<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携による三点固定(就寝時刻・起床時刻・家庭学習開始時刻)の取組 「ストップ9」の取組 	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。	a	B	a	A	<p>○毎時間, 継続して実施することができ, 生徒の動きも改善されていった。</p> <p>○生活リズムチェック(11月)での三点固定の定着率は71.7%で, 中間評価よりも5.9%増加した。学習開始の時刻は早くなっているが, 就寝時刻が遅くなる傾向が見られた。定着率は増加したが目標には達成していないため, 生活リズムの固定について引き続き保健だより等で呼びかけていきたい。</p>			
				★三点固定の取組を行い, 定着率を75%以上にする。	b		b					
	基礎体力の向上		<ul style="list-style-type: none"> 体力づくり計画による体育授業の実施・新体力テストの課題種目の再実施 部活動(運動部)の充実 	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。	a	A	a	A	<p>○本年度, 新体力テストは第2学年のみ県平均が公表されており, 当該学年のみ比較を行った。男女合計で16種目中9種目(56.25%)が県平均を越えている。平均を越えなかった種目を中心に, 体育科の授業最初に補強運動を継続的に行った。</p> <p>○「あなたは部活動に主体的に取り組んでいますか。」という項目に対して, 当てはまる「68.6%」, やや当てはまる「17.1%」である。また, 「あなたは部活動に満足していますか。」という項目に対して, 当てはまる「60.0%」, やや当てはまる「25.7%」である。アンケート結果は1学期末よりも向上した。引き続き, 生徒のニーズに合った部活動経営を行っていく。</p>			
				★新体力テストで, 県平均以上の種目を70%以上にする。	/		b					
★生徒アンケート「部活動に主体的に取り組んだ」を80%以上にする。	a	a										
★生徒アンケート「生徒の部活動満足度」を80%以上にする。	a	a										
信頼される学校	働き方改革を推進し, 組織力を向上させ, 「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進 組織的な学校運営の強化 不祥事防止研修の充実 小中一貫教育の発展 地域力を生かしたカリキュラムの実施 	☆働き方改革について研修の機会をもち, 業務改善が進んでいるか学期に1回振り返りを行い, 改善を進めていく。	b	A	b	A	<p>○働き方改革については, 職員アンケートを実施した結果, 職員それぞれが改善に努めているが, 一人ずつの持ち時間数や分掌の担当等で仕事量の平準化が進まず, 一部の職員に偏ってしまうことになった。</p> <p>○不祥事防止研修は, 月1回の服務研修と, 必要に応じて職員朝会等での注意喚起や意識統一等を適宜行った。</p> <p>○小中一貫教育においては, 松宮先生を招聘し, 3回の合同授業研修を計画通り実施することができた。小中一貫だよりの発行も学期に一回発行することができた。合同研修会も春と夏に2回一同に会して各部ごとに取り組むことができた。</p> <p>○総合的な学習の時間では, 各学年がふるさと甲奴を愛し誇れるように, 生徒が主体的に学習できる工夫を凝らした。</p>			
				☆不祥事防止研修は, 主任や主事, 学年会で担当を決め, 主体的な研修にする。	a		a					
				☆小中一貫教育推進協議会を中心に小中合同研修会を開催する。	a		a					
				★地域探究学習後の生徒アンケートで「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価を90%にする。	a		a					
						指標評価・評価	a・A	b・B	c・C	d・D	e・E	
						基準	100%以上の達成度	80%以上100%未満の達成度	60%以上80%未満の達成度	40%以上60%未満の達成度	40%未満の達成度	
							十分に目標を達成できた	概ね目標を達成できた	ある程度目標を達成できた	あまり目標を達成できなかった	目標を達成できなかった	